
研究活動報告

中国民政部政策研究中心主催 日中韓高齢者介護研究成果交流会 (中国・北京)

2019年5月8日(水)、中国・北京にて、中国民政部政策研究中心主催で、KIHASA(韓国保健社会研究院)を含めた三ヶ国合同の高齢者介護に関する研究成果交流会が開催され、社人研から筆者が参加した。日本からはさらに、東京通信大学増田雅暢教授、JETRO北京事務所唐澤和之対外外務部副部長も参加・報告した。日中韓三か国における高齢者介護の政策対応の歴史や現状、企業や地域のとりくみ、高齢者虐待や農村部の状況などについて報告が行われた。

中国政府は近年人口高齢化に向けて機構改革を行っており、2018年3月には医療、介護、福祉に関する業務の所掌が整理・変更され、中国民政部に養老服務司(高齢者介護サービス局)が設置された。今後は高齢者医療を担当する国家衛生健康委員会の老齡健康司、介護保険の検討を行う人力資源社会保障部の養老保険司と共に、中国における高齢者医療・介護施策が進められることになった。これを機に、中国民政部政策研究中心は高齢者介護について研究を強化するとのことである。

(林 玲子 記)

世帯・居住状態の将来推計に関する国際セミナー

2019年5月9~10日に International Conference and Training Workshop on Household and Living Arrangement Projections for Informed Decision-Making(“家庭人口分析预测与科学决策”国際研讨会)が中国北京市で開催され、筆者が報告者および座長として参加した。第1日は北京大学国家発展研究院を会場とし、「基調講演および国際連帯設立の趣旨」「世帯・居住状態の過去・現在・未来」「家族・世帯の分析と将来推計の方法論」「世帯・居住状態と健康長寿」の4セッションが行われた。筆者は方法論セッションの座長をつとめるとともに、健康長寿セッションで“Living Arrangements of Elderly People in Japan”と題する報告を行った。第2日は会場を中国人口与発展研究中心に移し、「世帯・居住状態将来推計と持続可能な開発」「世帯・居住状態将来推計の社会経済計画と政策分析への応用」セッションが行われ、また同センターの人口データ・ラボを見学した。

(鈴木 透 記)

第5回人類死亡データベースシンポジウム(ドイツ・ベルリン)

ドイツ・ベルリンのマックスプランク研究所ハルナックハウスで2019年5月13・14日に、第5回人類死亡データベースシンポジウムが開催され、筆者が参加した。2日間かけて、人類死亡データベースを用いた死亡率のパターンや今後の寿命動向等に関する報告・討議が行われた。筆者は「日本における突然死の傾向」と題するポスター報告を行った。

人類死亡データベース(Human Mortality Database:HMD)は、カニスト-サッチャー高齢死亡率データベース(KTD)の影響を受け、2000年にカルフォルニア大学バークレー校とマックスプラ